

二月七日
 上海
 李四清 伊 伊
 二月七日
 上海

二月七日
 上海
 李四清 伊 伊
 二月七日
 上海

李四清 伊 伊

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense, cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense, cursive writing.

Handwritten text in Chinese cursive script (草书) on page 220. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The characters are highly stylized and interconnected, characteristic of the cursive style.

Handwritten text in Chinese cursive script (草书) on page 221. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The characters are highly stylized and interconnected, characteristic of the cursive style.

● 一、
● 二、
● 三、
● 四、
● 五、
● 六、
● 七、
● 八、
● 九、
● 十、

● 一、
● 二、
● 三、
● 四、
● 五、
● 六、
● 七、
● 八、
● 九、
● 十、

草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书

草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书
草书行书

三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房

三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房
 三石山房

之、中、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

之、中、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

此、亦、一、種、之、也、

沙 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔

尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔
 尔 尔 尔 尔 尔

西
 東
 南
 北
 中
 外
 天
 地
 人
 心
 萬
 物
 皆
 有
 道
 也

子
 之

子
 之
 道

夫
 道
 之
 在
 世
 也
 猶
 水
 之
 在
 地
 也
 夫
 道
 之
 在
 世
 猶
 水
 之
 在
 地
 猶
 水
 之
 在
 地
 猶
 水
 之
 在
 地
 猶
 水
 之
 在
 地

夫
 道
 之
 在
 世
 猶
 水
 之
 在
 地
 猶
 水
 之
 在
 地
 猶
 水
 之
 在
 地
 猶
 水
 之
 在
 地

柳樹沙汀
草堂
江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

江上

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 4 lines of cursive script.

溪山行旅图卷尾
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词

卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词
卷尾题词

子行
子行
子行
子行
子行
子行
子行

子行
子行
子行
子行
子行
子行
子行

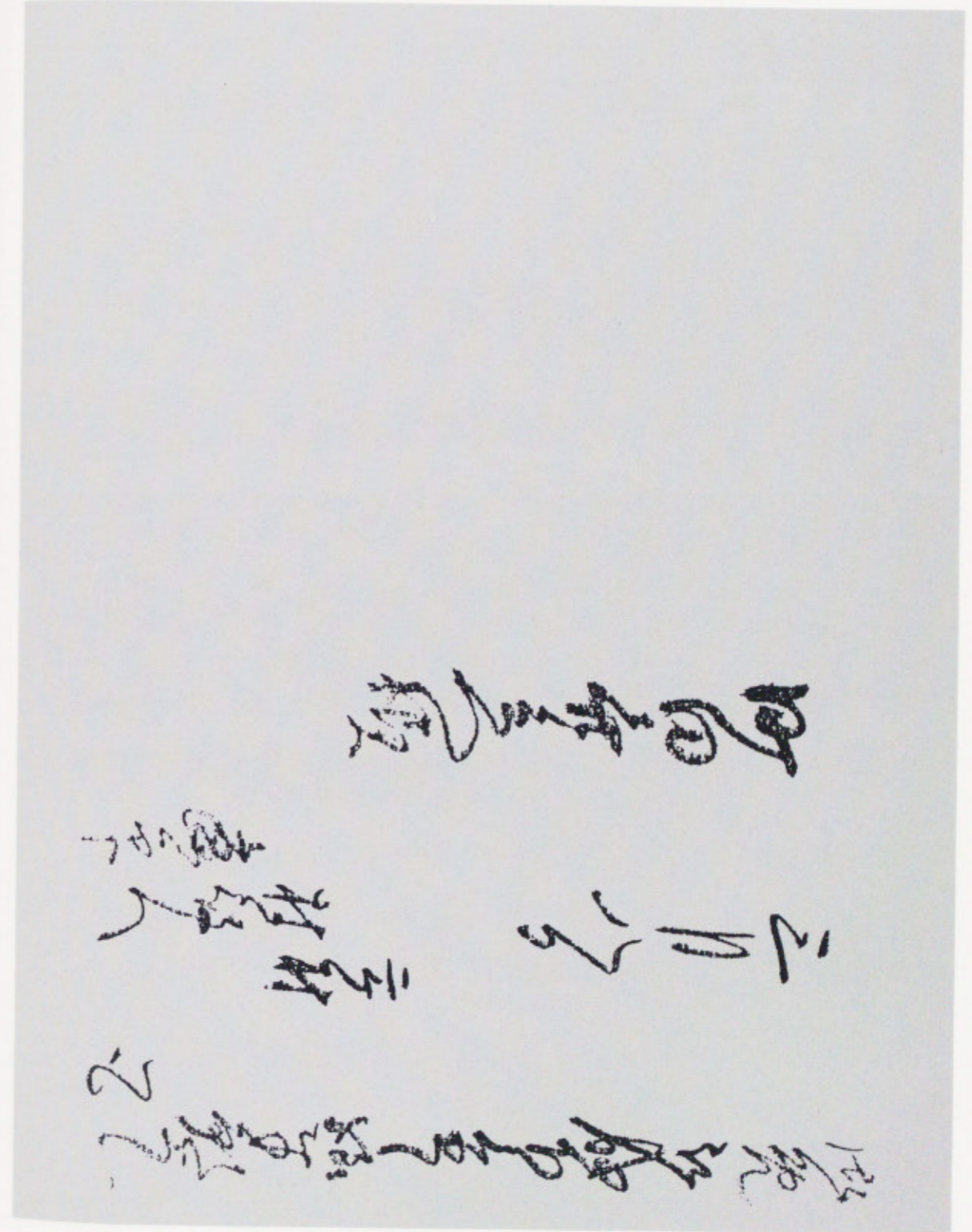
此後之世
其後之世
其後之世
其後之世
其後之世
其後之世
其後之世

其後之世
其後之世
其後之世
其後之世
其後之世
其後之世
其後之世

一、本行自開辦以來，承蒙各界人士之厚愛，業務日見發達。茲為擴大服務起見，特在各地增設分行，以期便利僑胞。凡有存款、匯款、儲蓄等項，均可隨時辦理。本行信譽昭著，手續簡便，利息優厚，誠為僑胞之理想選擇。特此公告。

本行自開辦以來，承蒙各界人士之厚愛，業務日見發達。茲為擴大服務起見，特在各地增設分行，以期便利僑胞。凡有存款、匯款、儲蓄等項，均可隨時辦理。本行信譽昭著，手續簡便，利息優厚，誠為僑胞之理想選擇。特此公告。

积
文



(1) 三月 四日 野口村清右門より江戸應善寺の儀助様へ

(端裏書)

「三月四日出

江戸應善寺様へて

儀助様

野口村清右衛門

無別条用之

一筆啓上仕候、春暖相もよふし候処、各々様方御勇健。て御道中無滞其御地へ御着被成候哉、大慶至極。奉存候、階て下拙共息才。罷有候間、御案心可被下候、然は御役人中御吟味も至て敷敷候え共、男之儀は老人も手合不申候へ共、女両三人も両村之内。て今三日。召とられ、更木表。て入牢致し、甚迷惑仕候、扱亦更木甚右衛門之儀当御地頭様御用人と御触有之、敷敷相廻整儀致し候、此段鳥渡御知らせ申上候
一金式拾両差下シ申候間、慥。御落手可被下候、尚亦金子御入用。御座候へば、早速以書状御志らせ可被下候
一此度之御用之儀へ何れ御。公儀様ならでへ相済不申候間、御

カヲ入、御本望とげ可被下候様、一同。奉頼上候、殊。より候えハ両人も跡より参り候趣相談致かけ置候えとも、堅ハ相志れ不申候えとも、此段も一寸申上候

一其御地應善寺様之儀へ、平岡様へ御手筋も有之候趣承り候故、一寸御志らせ申上候間、御住寺様得と御相談可然と奉存候、委細之儀へ重便。申進候、右之段申上度如此。御座候、以上

三月四日出し

清右衛門

民 藏

萬右衛門

勇右衛門

金左衛門 様

儀 助 様

兼 藏 様

九兵衛 様

彦 作 様

(2) 三月 七日 清右衛門より儀助様へ 口上

(端裏書)

「三月七日出 従美濃各務郡

應善寺様へて

儀助様

野口村 清右衛門

金二十両遣ス時内用之事

尚々、四日限ヲ以御申達候、弥々御安康。御座候哉、目出度奉存候、然は昨四日出書状并。金子式拾両應善寺様向送り遣置候、定て此節ハ御請取被下候哉と奉存候、扱亦此度申上候儀へ、三奉行所御門前。は御地頭様より隠目付御出し被遊候由承り候間、三奉行所御門前へ御出之節何人たり共深切ケ間敷因所御地頭様相尋候共、必々大望之儀ハ勿論名前杯は御名乗被成候儀御無用。奉存候、譬へ外々。ても如何体之事相尋候とも徳山御地行所之者と御答被成間敷候様奉存候、若々徳山御知行所之由。相見へ候ハ、直接召捕可申候間、右等之趣御心得可被下候、此方。ては御役所之趣追々承り候処、

何れ三奉行所其外宿々へも手配有之候由相聞へ候間、御油断被下間敷候、右。付五人御衆中名前更木役所へ相知レ候様。相見へ候間、貴丈様方御改名被下候儀宜敷哉。奉存候、此段御勘考之上可然様奉頼上候

一 小川長兵衛殿佐々木氏。同服と承り候間、御出之儀必御無用。奉存候、段々様子承り候処、熊田村戸田様も一同。御見地之趣。相聞へ候間、一寸御知らせ申上候

一金左衛門様内方之儀御役所より懸合有之、六ヶ敷候故難縁状取置候趣喜内殿相答被置候間、左様。御承知可被成候
一 熊田村ハ戸田様分ト御一所。御見地と相見へ、甚安外致、小前も口々。相見へ申候間、此段御しらせ申上候、右四ヶ条あら。申上候、余ハ後便。申上度候、謹言

清右衛門

五右衛門

次 吉

民 藏

勇右衛門

三月七日出

口上

弥御安泰可被成御座奉賀候、然者昨日書状着仕故、持セ上候、

尚又、御咄し申上度義も有之候間、後刻も拙寺まで御出被下
度奉存候、委細は貴面へ可申入候、以上

三月十四日 應善寺

儀助様

(3) 三月廿二日 江戸の大火について

(端裏書)

「三月廿二日認メ」

尚々、御寺社御奉行所へも大火。付延引口儀御座候間、左承
知可被下候、猶又金左衛門儀今日参り候処、橋々焼落、深川
えは参不申候、猶又重便申遣候、以上

以飛脚啓上仕候、追々暖氣相成候え共、先以其御地各々様益々
御安泰。被成御座候故大慶。奉存候、次。私共五人共無別
条罷居申候、乍憚御安意思召可被下候、然は先達て十六日出
状之遣シ申、御一覽可被成候通り、扱又此節應善寺様御世話
。預り、又々寺社御奉行所廿二・三日頃。御願出候と相極メ
リ申候処、当廿一朝五ツ時より同夜八ツ時焼続キ、凡江戸
神田作場町より火元。て、御城そと西南はしば口迄、東南築
地深川橋は日本はし永代橋其外橋々不残焼落申候

一築地御門跡、是又御焼失被成、御寺内之寺不残やけ、應善寺
様も御焼失被成候間、土蔵ヶ所は残り、諸道道は無別条御

座候間、其旨御安心可被下候、且又私共廿二・三日頃願出
之所、大火。て奉行所も二三日も御休日と相成候間、左様御
承知可被下候、猶又江戸中。凡人数千程やけ死申候、誠。
驚入申候、猶又重便之節御奉行所儀申上候、早々、以上

五人より

三月二十二日

清右衛門様

勇右衛門様

其外役前様

(4) 四月 四日 江戸より清右衛門様へ

(端裏書)

「四月四日認め状」

尚々、古市場村清助様御苦勞之段誠。万々有難仕合奉存候、乍此上宜様御世話被成下候段、奉希左様御達可被下候、且

又源右衛門様・佐右衛門様も御伝達奉願入候、以上
飛札啓上仕候、弥御安康之趣先は目出度御儀奉存候、右は当方之者共息才。て罷在候、然は此度新吾到来。付、御書状書達并新吾よりも細委不残承知仕候、誠。大變驚入申候次第是悲もなき事。奉存候、且又其地之人々老人たり共余力なく、当地一円之心庭而已之御事、誠。たのもしき御儀、当方之者共精一はい。相働之申合せ、御地。ても随分任神御心強肝要奉存候、尚又先達書状三月十二日出し、次。十六日同廿三日都合三度差登せ申候、其書状一度も御地えハ相届不申趣承知仕、如何之振合候哉と不安心、一大事洩候てハさわりと相成候事ヲ相敷驚候義、左候へ共、皆心は鉄石之ことく、尚又此

段御安心可被下候

一 三月十一日社御奉行所松平丹波守様え彦作願出申候処、其節は願書御預り。相成、同十四日、彦作ヲ御呼出。付、段々御理解厚ク被仰聞、願書御指戻シ。相成、津き寺應善寺様御苦勞。被成下候処、同廿一日当地大火。付、御奉行所之義も、監ク御糺も無御座候故、右。てハ延引相成候てハ□候儘、應善寺様之御義ハ御断申上候、再願出之事

一 四月二日右彦作御駕籠訴之積り、宿所朝五ツ時出、御老中様四ツ時之御登城水野出羽守様え願付ケ、直様彦作水野之御屋敷え相下り、夫より徳山主計様之御頭、永井五右衛門様ヲ御城え急御登之義被仰付、御老中様御列座。て右御頭永井五右衛門様え御引渡。相成、則御本家様より老人御分知より老人、都合式人役人中永井五右衛門様え参り、右彦作ヲ相請取申帰り、夫より直様御本家屋敷え相引レ、御糺役人之義ハ、一番ハ徳山主計様并青木文右衛門、村瀬御役人式人、岡谷久右衛門・深山周介、徳山五兵衛様家来。ハ、平光平左衛門・藤江藤左衛門、都合六人列ヲただし被仰聞候趣ハ、我不届至極成者地頭所えハ、なせ名のり願出候ハすや不届成事。申候、彦作相こたへ申候義ハ、如何様被仰聞、又ハ此場。て命ヲ被召候共、佐々木宗左衛門支配之義ハ何分にも請不申様申上候

処、夫より繩手鎖。て虎御門村瀬平四郎様方え、同三日御引渡受取参申候末、村瀬様方之様子ハ相知レ不申候え共、追々相知レ次第御達申候、那又新吾宿所上州屋源助方えハ同三日着致、道中之義も無難。て有之候由、是又御心慮可被下候、右は是迄之始末尚追々後より願出之積り候へハ、又々重便申達候

一 入用之義も成丈之義、御儉約仕候へ共、日数並人数御案内之通故、費恐候、且又精急。金子入用之事も是あらん哉と奉存候故、申達候、右金子俄にてハ只今浪人之内故、賄方も六ヶ敷哉。奉申合候間、少々之処ハ御手当テ被下度様奉存候、左候へハ俄之義有之候共早速之間入哉と奉存候故、乍失礼鳥渡申達置候、先は何事も右之始末如此御座候、何分。目出度、恐惶謹言

善平

四月四日

右連中

清右衛門様

御連中 様

(5) 四月 十日 幸田七兵衛より上州屋源助様へ

(端裏書)

上書

「四月十日。出ス、上州屋源助様幸田七兵衛より」

〔付箋〕
「更木坂井甚右衛門へ、三月十日比御分家御用人佐々木より被申付、其後ハ大樹寺へ始終出張被居候、いまましく奉存候、以上」

尚々、二ヶ村一同立寄り候へ共、村役人共無之。付、出府人婦村迄当時庄屋代役嶋崎村五右衛門・甚七被 仰付、野口村ハ源次郎へ被 仰付、尤銀右衛門へ一同相談取計可申様、坂井甚右衛門とのより被 仰付候、以上

四日便リヲ以啓上仕候、追々薄暮相催申候処、各々様御揃益々御壯健可被成御座奉珍重候、次、爰許私共始二ヶ村之内皆々無異儀罷有候間、乍憚御休意思召可被下候、然は此方も其御地より宜敷キ儲成ル御便りも日々相待申候処、三月十四日寺

場清助も万事相談仕候

一此上は御地頭様へ御老人御出願可被成候、尤御願筋之儀ハ先
ン 御殿様よりも御引合申上置候通り、新規御抱當時御雇等之御役人様并佐々木様ハ勿論御断御願可被下候、并、御地頭所より再御検地之儀決て御断御願可被下候

一各々様五人之内。て又御老人ハ可然御奉行所へ御欠込ミ可被成候

一又御老人ハ、御老中様へ御興訴可被成候

一又御老人も右同断御老中様へ御興訴可被成候

右。四人御掛り被成、跡、御老人ハ国方文通・御地頭所様子万端御心配可被成被下度候、尤出訴四人之内ハ何レ御地頭所へ其時々御引渡し。相成可申、右は此方御出立之御引合。御座候、勿論御地頭所へ御引渡し。相成候ても御心配。は不
及申様奉存候、右等之儀ハ公事宿。御掛り御尋候へは委ク相
分り可申候

一此度之一件之儀ハ何レ御表向欠込ミ并御駕籠訴、何レも其時々御地頭所へ御引渡し。相成、其上御内々。て應善寺様より御取成被下置候ハ、誠。罷。翼と奉存候、是迄之通り應善寺様計り。御骨折らし候、御内々而已。ては抄り不申候様、此方一同奉存候

社御奉行所へ御出願之御便り計リ。て、其後一件之儀。付儲

。便リ。相成候御紙面も不遺、此方は二月廿七日より家へ出
いたし候儘、所々方々へ隠レ居候。付、田畑耕作等も其儘。

打捨有之候。付、隣村之衆中より見兼候て御立入被下、三月
廿六日。両村小前之女共はかり御取暖。て帰宅仕、翌廿七日
より伊吹・古市場両村家並役之人足ヲ以、麦ズリ并芋植等迄
相済申候処、此セつ小もの蒔苗代も近より候へ共、両村女計
リ。ては右等之儀も不行届、御地より儲成使りも無之、両村
小前べん／＼といたし候を、猶亦隣村之衆中見兼候て又々御
立入御取暖。て、四月九日夕両村小前計り帰宅仕候、尤出府
五人之衆中御婦村迄ハ何事。不寄御吟味ハ無之筈、立入之衆
中より伴七とのへ儲。御引合相済帰宅仕候、并村役人も女は
かり立寄り候筈。是亦立入之衆中より御取計被下、村役人は
未タ帰宅相成不申候、右は各々様方御出府より四十日。も相
成候へ共、何事も夫形リ之儀。付、此方も待退屈いたし候、
勿論小もの蒔苗代も差掛り候ゆへ、無処小前ミミな帰宅仕
候間、左様御承知可被下候、次、新五郎様其御地へ御着被成
候へは、直様御紙面も否御申し被成候筈、是亦御引合とハ
相違。相成申候、立入衆名前ハ須衛佐右衛門との・古市場源
右衛門との・伊吹源藏との・佐藏との。御座候、内々ハ古市

一新五郎様御儀も御不用。候ハ、費も相立事。候へは、御婦
村可被下候

一表向キ欠込ミ御駕籠訴之上、御地頭所へ御引渡し。相成申候
ハ、再御検地之儀ハ相止ミ可申と奉存候、何レ。も貴公様
方御宿と此手紙御一読之上篤ト御示談御出情御働可被下候、
此方二ヶ村一同貴公様方より御出願儲成御便り相待候而已、
多事無御座候、何分宜敷御勘考御働奉頼上候

一駆込訴御駕籠訴共願書認メ方之儀ハ、先達新五郎とのへ差遣
し候、此方。て笠松へ捨訴之願面此方之有様を書取候文体。

御座候間、御地御宿へ御相談之上、右之姿ヲ以御相談御書取
可被下候、乍併外。宜敷思召も御座候ハ、其段は貴公様方
御示談之上御吞込次第御取計可被下候、右は二ヶ村小前并女
共迄一同立寄り之儀御知らセ申上度、又ハ其御地出願手間取
候。付、乍不及右等之儀も御相談申上度、新五郎様御着之御
便りも待兼、得貴意申候、大乱筆御免被下、御察読可被申候
右は清助筆子仕候

四月十日発

清右衛門

次 吉

民 藏

林 内

五右衛門
甚七
源之助

五人様

貴下

尚々三月廿二日出、大宴之趣承知仕候、定て貴公様方。も御難儀之段奉察候、且應善寺様御類焼之由御笑止千万申尽かたく、右御寺様へも御見舞状并。私共よりも貴公様方へ委細書状も認メ、新加納太藏との御弟御新発知様へ向ケ、御誂へ遣申候、是ハ今日新加納出立。御座候ゆへ、此手紙より跡とて御地へ着可仕と奉存候、以上

(6) 四月十一日 四月二日御輿訴について

(端裏書)

「應善寺様より上州屋へ参り候と相見、則同寺より儀助とのへ之包紙アリ

四月十一日。出ス状、四月二日御輿訴之便り着、則十一日。遣ス返事」

御重便ハ笠松御用会所清助方へ向ケ御こし可被申候、已上

尚々、四日早便りヲ以、又候啓上仕候、近日薄暑相催申候処、各々様益々御壮健可被成御座、奉珍重候、次。爰許無異儀罷有候間、乍憚御休慮思召可被下候、然ハ四月四日御認メ之御状同十一日未ノ上刻笠松御用会所より飛脚持込、皆々出会拜見仕候、尤古市場源右衛門との十一日朝キフへ御退夜参詣。ど山迄出かけ候処、昨夜更木御陣屋へ飛脚至来候処、の口嶋崎水野様へ御輿訴被成候由。付、河合伴七との。御分家新用

人坂井甚右衛門との兩人共今早朝出張、尤彦作との弟松本村勇助御本家御仲間相勤、国者殊。兄弟ゆへ右兩人一同御本家。て御咎被申付候趣、源右衛門との聞と、一入キフ行相止メ引返し、先ツ嶋崎五右衛門との。林内とのへも右之趣申通シ、古市清助方へも右之段申通しられ候て、安清との始メ其外出会大悦仕候処へ、笠松より右御書状至来拜仕候、扱々彦作様御出情御輿訴之段委細被 仰下、具。承知仕、誠。此方一同大キ。恐悦仕候、是迄も御着状も遅ク待兼て新吾とのを飛脚同様。差遣し候処、又々御同人御着状も思ひに遅ク、依之御氣障りも不顧、種々文通申上候処、此度四日之御駕籠訴被成下、是迄申上候文通傍面目も無御座候、此段幾重々御用捨可被下候

一先ツ欠込。訴は先達被仰越候松平丹波守様へ御出願被成下候故、是ハ相済、次。此度又候彦作様御駕籠訴被成下、是亦千万奈、右之勢ひ之抜ケぬさきに今一応、外御大老様へ御輿訴被成下候様何分々奉願上候、右。付ては昨日。認メ差上申候手紙、其御地着之節御披見被下候共、両村小前之者一同立歸り耕作致候儀は、先々表向キ御内分。被成、未タ両村一同立歸り不申苗代并粟稗蒔差支候趣、勿論苗代差支候ては植付。も抱り、左候ハ往々御取納。も差障り候ては迷惑難決

之由。御申立被成候方可然哉、御宿御代猶御亭主。も駕ト御相談可被成候、何レ。も右苗代小もの蒔植付迄も家出致居候ては差支、殊。先達て御興訴仕候彦作も村瀬様へ御引渡シ。相成、御咎被 仰付、夫形。手間取候ては、右苗代小もの蒔往々植付御收納。も差支、迷惑難波之趣被 仰立、今一応御老中様之内へ御興訴被下度候

一此節各々様御心ゆるみ候ハ、油断を窺ひ、万一御地頭所より召捕候儀杯御座候ハ、直様其趣御認メ、残り之御人。て御興訴可被成候

一四月二日彦作様御駕籠訴、又候殿方様成共御駕籠訴、都合兩度は御駕籠訴被成可被下候、猶亦二度め之御駕籠訴願書書キ添等之儀ハ御宿と駕ト御相談可被下候

一御駕籠訴兩度被成候ハ、御兩人共牢舎可被 仰付、たとへ濟口手間取長ク牢舎。相成候共、御本家騒動之節、の口作右衛門との格。今暫ク之処。候ハ、何卒御難波。候共大丈夫。御しんほう可被成候、作右衛門とのハ今少シ之難波を凌兼、牢を破、直。御興訴も可致と牢番嶋崎菊藏。かぶせ候ゆへ、事を仕損シ候様奉存候間、右等之儀御勘考之上御宿御相談之上奉頼上候

一御駕籠訴御引渡之上、願書認メ人シ并旅宿等御吟味御座候ハ、

戸と申ハいきちつよき人シ氣之所ゆへ、右両方共各々様御心得違之儀も御座候ハ、夫々之御方を御頼ミ被成、実意之御断御申なし可被成候、大望之身ハ万々一右等之儀。て差障リ。相成候ては一大事。候間よく御勘考可被下候

一村役人ハ、表側釘付戸ノ之儘、裏側を少シ明ケ、女共計り立帰り申候、小前ハ男女とも立帰り申候

いろ／＼申上度候へとも、重便之節と早々申残し候、しかし口から出る儘。馳筆仕候ゆへ、一向くだ／＼しく文体も前後いたし候間、よろしく御察読可被下候、大乱筆御免可被下候

一須衛佐右衛門、古市場源右衛門・清助、右よりも各々様へ宜敷申上候様被申聞候
一御地頭様御定用御月次ハ、両村共毎月御差支無之様可仕相談。相決居申候、左様御承知可被下候、願イ中臨時御用向金談等ハ勿論御断可申上と心得居申候、是も御承知可被申候
一其御地御入用金之儀被 仰越委細承知仕候、難遣御地御入用ハ御心配なく御遣可被成候、しかしかんりやくハ御出情御ケンやく可被下候

可祝
四月十一日八ツ時比より夕五ツ時分迄。認メ、翌十二日名古屋へ指出ス

御答之振合ハ御宿。よく御開合御答可被成候、右ハ御如在も有之間敷と奉存候へとも、思ひ付候。付申上候

一河合伴七様も今日更木御陣屋より帰り、古市源右衛門へ御内々御咄シ。は、佐々木も逃口上、町田も同断、坂井甚右衛門も右同断。て、伴七との卷人かふり。相成候。付、此度御駕籠訴届ケ書之返事も伴七との卷人。て、今十一日書状差立候趣内々之はなし。候由

一先達之書状。も申上候通り、三月朔日新御用人坂井甚右衛門との、右ハ佐々木より被申付候とて、只今。大樹寺。出張被居候、其御地出願之節其振合。て、右新御用人も御断り被仰上敷、御勘考可被成候、右甚右衛門今十一日更木御陣屋。て佐々木・町田・河合一同列席之節、両村共男女家出致候跡。て御用人被 仰付候ゆへ、手前ハ何事も不存由被申候由。候

一四月九日夜八ツ時比迄。立入人有之、両村男も銘々立帰り候趣、委細逐一相認メ翌十日早朝名古屋へ持出し申候、是ハ應善寺様へ向ケ差上申候間、受取。御越シ可被成候

一應善寺様へ御断之振合暫ク御氣障り。相成候趣、中嶋村久藏とのへ御内々書状参り候由、新加納太藏とのより承り申候、并。何方敷不存候へ共、御旅宿もそこ／＼。御宿替被成候由、右両様は如何之思召。候哉、遠察相成不申候へ共、兼々御江

清右衛門
次 吉
民 藏
五右衛門
勇右衛門
林 内

五人様
并新吾様
貴下

(7) 四月十三日 儀助、善平より清右衛門様へ

(端裏書)

「四月十三日認め状」

尚々、三月廿四日出之御書状、当月五日八ツ時至着仕候。受取拜見致し候、随分／＼村方男女。至迄被相煩様乍陰御取廻し何被成候、以上

以飛札啓上仕候、弥御安康。て目出度奉存候、次。当方之者息才。罷有申候間御安慮可被下候、然は今日迄之当方始末鳥渡申達候、先達之書状。も申遣候、初。寺社御奉行所松平丹波守様欠込、并彦作儀水野出羽守様之御駕籠御訴申上、并九兵衛四月五日地頭所御頭永井五右衛門様之願出、右御引渡。相成、皆御差留。て心配居候え共、何等之御沙汰も無之、当十三日兼藏又々水野様之御駕籠御訴。出、則儀助殿見届として下馬迄付添参り直様願書御取上、兼藏儀は後供頭引誘御屋敷之参候迄見届ケ右儀助殿被相帰申候、且右前。御箱訴当十一日一はん打込申候、右佐々木惣左衛門取計之儀、逸々ケ

条書。致、西市場より之始末旁、尚又倉知村一件迄相認め候間、中々長文。相成右御箱。入兼申候て迷惑仕候

一、高田村一件。付御奉行所より佐々木惣左衛門当方之呼帰候様仰聞。付、更木陣屋之其趣申参り候義、儲承知致申候、先達五兵衛様知行所と高田村と御対決之節、甚不出来。付右惣左衛門之出シ御吟味有之候趣御座候、尚又此間跡部村惠利寺とて当方之罷下候所、追々様子相聞候処、佐々木、倉知始メ外式ケ村手荒之取計右。付、地頭所村瀬平四郎様之御機嫌相伺旁々御直。て佐々木始末方逸々言上之積り之処、村瀬様右惠利寺。直面不致申上候義有之ハ、書面。て申達べく旨申付られ、直様委細相認め被差出候処、未其儀屋敷より返答無御座候、何れ共是等之趣も当方之為又ハ当方義ハ先方之ため。も相成幹。て御座候、且当方之儀も只今。てハ分兼候え共此度ハ何れ共相分りへく様奉存候、尚右幹。て参兼候へハ、追々箱訴御駕籠御訴致し候存念。御座候、右又々變御座候へハ直様申達候

一何れえ相成候ても残念。参不申趣、苗代杯之儀ハ隣村。ても少々ツ。成共御手当可被成候、誠以当方之者共もひし／＼と参り不申故、御地之衆中不働。も可致様万一被思召候てハ氣之毒、格別心配御察可被下候、那又度々出火故迷惑奉存候、

筆末ながら先使。も一寸申達置候金段之義何時申上候共相知レ不申、何卒御手当可被下置候、先は申上義如此御座候、恐惶謹言

儀助

善平

四月十三日

安積清右衛門様

(8) 四月廿一日 四月十三日の返事、上州屋へ儀助、大橋權助と改名

(端裏書)

「四月十三日手紙之返事

四月廿日認メ廿一日出し

上州屋へ向ケ遣ス

儀助、大橋權助と改名」

尚々、二ヶ村之内小児老人煩ひ不申、嶋崎藤右衛門ひせん(皮替)をかく計り候、の口友藏との母四月十二日死去候、右のミにて跡(風形)へ風ひとつひき不申候、并所々被遺候御紙面早速相届ケ可申候、以上

以早便致啓上候、追日薄暑相催申候処、各々様御揃益々御壯健可被成、珍重奉存候、然は四月十三日出之御書状拜見仕候処、御地頭様御頭永井様之九兵衛様御願引渡、十一日御評定御箱訴、又十三日水野様之兼藏様御駕籠訴被成候趣被仰越、承知仕候、因々是迄段御出情之段千万〳〵忝、二ヶ村一同太悦仕候(はなはだ)

一跡部村惠利寺様御下り之御様子、是亦承知仕候、惠利寺様と

各々様御同居被成候様奉存候、右和尚様より村瀬様へ御諫言之御序も御座候ハ、徳山主計様も右和尚様より御内々御序御諫被仰上被下置候様、御頼被下度奉存候

一一件之儀も是迄其御地御願方不働キ之様子も遠察仕、願方種々催促申上候処、欠込(延)ミ訴并御頭様へも御出願、猶亦御駕籠訴兩度、段々御出情被下候ゆへ、此方願方は依御苦勞、先々御上様迄御聞達シ候間、此上御出訴三人之衆中格別之拷問にても被仰付、至て難波および候儀も出来候ハ、不_レ及是非候間、又々御駕籠訴被成可被下、御出訴三人之衆中別段之殿敷御咎も無御座候ハ、此方願通りは御聞達シ候ゆへ、三度目之御駕籠訴は先々御見合可被下敷、御宿并御手代え駕籠御相談可被下候

一此度御地頭所より三ヶ村へ金段之儀被仰出候ハ、又々重便紙面ヲ以御示談可申上候間、左様御承知之上御答可被下候

一御地頭所より熊田村之儀御談示被仰出候ハ、是亦不依何事、決て御懸り合被成間敷候、万々一難差置儀被仰出候ハは、重便御示談可申上候

一四月十日出シ書状差上申候、是は二ヶ村小前之者計り立帰り

之一件御知らセ申上候書状御座候、右は應善寺様名当(宛)差上申候、右手紙之内は種々之儀申上候間、貴公様方之内應善寺様へ御越之儀御心痛候ハ、外て人を御頼ミ被成、

右御寺より四月十日出之書状御取寄御披見可被下候、兩村村役人ハ未タ帰り不申候、村役人も女子計り立帰り申候

一四月二日水様へ彦作様御駕籠訴之趣被仰下、四月十一日至来付、右御返事直様認メ、新下谷町上州屋へ向ケ差上申候、是ハ定て御披見可有之と奉存候

一大垣御預所にて宿場助成金御拜借有之候処、右一件去ル申年より戌亥子年迄も不納付、右江戸御屋敷より御勘定曾我豊後守様へ不納御達有之候付、御頭長井様へ御勘定所より其段被仰渡有之、永井様より主計様へ其段御札付、主計様より当四月中知行所より出金上納可仕旨、長井様へ三月廿七日御請書御差出、右御勘定所より永井様へ被仰渡候趣、并御頭様へ主計様より御受書二通共、伴七とのより拜見仕候之共、二ヶ村寄合相談之趣、此度之一件相濟候迄ハ、何事も御断之趣伴七とのへ明廿一日断り可申上等一決仕候間、左様御承知可被下候

一先達て御料所六ヶ村より笠松御役所へ御届ケ書、猶亦其後二ヶ村より一件之捨訴、右二通共三月御勘定御月番え御達し御

窺ひ。相成候由、前(暫)の億助とのより古市源右衛門へ向ケ内はなし御座候、是ハほんの御はなしのミ候

一先達て小前一同立帰り之節、新用人坂井甚右衛門より小前一同大樹寺へ呼出、嶋崎五右衛門・甚七、の口源之助、右三人え当時代役被申付、則受書ハ当分村用定式之ミ相達可申受書差出申候、右も断可申と内談候へとも、甚右衛門より被申付候儀を承知不致候へは、請ルも請ぬも同し事ゆへ、先々表向口上之ミ請書差出承知仕候、右甚右衛門も四月十七日暮方大樹寺引私、更木へ立帰り申候、全ク佐々木拵へ役人相違無之と存候、四十日余りほんの喰テ寝て被居候、熊田よりハ毎日村役人御伺水歩を遣し、大キ御もてなし候、是も大笑ひさ

一倉知村町田喜兵衛とのも四月十四日出立。て帰府被致候、御同人御帰府着之上は此方之一件もそろ〳〵始り可申と奉存候一佐々木氏も此間は余程よわり申候様子。相聞へ申候、佐々木氏横山氏へ何か内談。被参候様子候、佐々木も依事候ハは、陣屋より直出奔可致も相知レ不申候と申事候

一四月十九日佐々木より河合氏を陣屋へ呼出、二ヶ村之事ハ何事も構不申由、河合氏取計可申と逃口上申候様子御座候、右ハ十九日嶋崎五右衛門へ河合よりはなし候、佐々木より

河合へ被申候へ、嶋崎儀兵衛御用金失形之事、去冬の口清
右衛門養生金。式両式分被下置候分取かへし可申と申由、熊
田清助より御用金差出候平藏寺七両式分之事、明廿日迄。右
三ヶ条金子差出可申候由、右ハ主計様より右三ヶ条ハ被相頼
参り候と申候、外ハ何事も不存由被申候由、二月廿七日。加
勢を頼ミ候ゆへ加勢遣し候のミ之由、逃口上申候よし。候
一是迄ハ御地御願方せりかけ候えとも、最ふ此上は二ヶ村治り
方專一と奉存候、何事も御勘考之上宜敷御取計奉願上候、
一古市喜右衛門とのへ一寸礼状被遣可被下候

一此方も小もの時七八分通り時付申候、各々様方小ものも手伝、
其外いろ／＼て此せつ八九分通りも時付申候間、左様御承
知可被下候、はさま田之内もの口捨役。て、打田其外何事。
不依いたし候筈。取極メ申候間、左様思召可被下候、苗代等
其外何事も御心配被成間敷候
右例之通大乱筆御免御察覽可被下候、又々御重便奉待入候、
右貴答のミ申上度、早々已上

四月廿日夕認メ

廿一日ナコヤへ持出し候

清右衛門
源之助

萬右衛門
民藏
五右衛門
勇右衛門
其外
古市清助方へ寄合
居申候銘々より

六人様
貴答

尚々、清助へ別紙被下置、忝御返事差上不申御免可被下候、
以上

(9) 四月廿九日 江戸よりの書状

(端裏書)

「四月廿九日出之御状」

四月廿日夜御認メ同廿一日名古屋表え御差立被成候御書状、
同廿八日八ツ時頃新下谷上州屋源助方え到着仕、取手おそし
と拜見致し候、先ハ皆様御揃御安泰之段承候、うれしく奉存
候、右は友藏母杯之義ハ格別老人故死去候共おしからず義。
奉存候、左候へ共、格之始末中。御座候間、両村并家内之衆
中、嘸し御心配之段奉遠察候、尚当方之者皆々息才。て罷在
候間、御安慮可被下候

一初立は松平丹波守様、二はん。ハ水様御駕籠御訴訟、三はん
ハ頭永井五右衛門様。て、第四はん水様え御訴訟、右之段
一々御地。ても御承知之御儀

一三人之者村瀬様。て牢舎罷在難決。て御座候、右人々よりも
日々。申遣し候は、最一度水様え可御願出候様被申候へ共、
且安藤對馬守様より御内談在之候。付、寺社御奉行所より御

本家様え向二度被仰付候は、右国元え出役人得と相糺候へて
ハ事明細。相分不申間、其者当方え引戻し可被致候、夫共其
屋敷より引戻し候儀相成兼候ハバ、当奉行所より可申遣也と
被仰候処、御本家よりハ有難奉存候へ共、私より御召之様子
申遣、早々立戻り申候様可申候候と御答之趣。承り申候、然
処中間幾度も出願箱訴之り志やうも有之、御奉行所。ても
深ク御勘考之有之哉。奉存候

一右御承知之通り出願仕候処、宿手代共。相談致し手代申候は、
段々之御願有之候故、地頭所菩提所長慶寺え御喃被成候て、
右長慶寺より地頭所之趣ヲ御聞被下、尚長慶寺より入牢之者
共御捨免有之候様御願可被下旨御願可成候様手代よりも申具、
夫より是迄追々願立候趣相認メ、尚又長慶寺え之頼書共。認
メ、同月廿一日。持参仕、右長慶寺和尚様え相咄し申候所、
早速。御承知被下、段々始末方申達候処、和尚様被仰候は、
右之趣主計殿え可相咄候間今日ハ可帰様被仰。付、其日ハ相
かへり同廿二日菩提所へ参候所、地頭所用人青木丈右衛門ヲ
御呼寄せ、私共直々丈右衛門え面談仕、右相認メ之書面差出、
何卒此段御開濟之程奉願候と申候処、青木丈右衛門申候は、
此度願出候段尤成義。候へ共、暫ク今表向。て惣左衛門手切
候てハ、万一佐々木御陣屋より直様出奔。ても仕候ては、去

冬御收納米代金皆々惣左衛門手。御座候間、左候てハ御本家
様格別之差支。相成候段氣之毒。奉存候間、此道りを勘弁致
し。婦村可致候様被申候、右又願書之儀も、此方え相納候間一
先婦村可致候、尚又佐々木之支配之儀ハ至定無御座候え共、
御本家様格別之大違イ候事、此道りを勘弁いたし書面杯相納
候義ハ合て、御本家様えひびき。相成不申様取計呉候様被
申候、其儀ハ承知仕候え共、私共始尚又彦作・九兵衛・兼藏
恐候義。御座候へ共、御老中・御奉行所・御頭永井様迄出願
も仕候程合之儀故、何成共手印無御座候へてハ、婦村仕候て
も申分ケも無御座候間、何卒御上様之御慈悲ハ、以来知行
所え新抱當時雇イ杯之役人差遣不申候様之御書付可被下候と
願立候えは、此義丈右衛門甚氣之毒存候え共、此義ハ出来不
申、其替り書面当方え相納候間、夫を書付とおもい婦村致候
様被申候、又々伴七殿へも委ク申遣候間、右之通可相心へ候
と申聞。御座候

一右一件。廿一日より廿八日迄毎日参り候処、廿八日ハ用向
て参り候処御座候間、明後晦日。参り候様、青木より右善
提所へ向ケ申参り候、直様相帰り申候、何れ晦日之日。ハ可
相分り様奉存候、誠々色々工風而已。て罷在、目もくは
り昼夜余事なく、ひりくるとまゝいり不申相こまり入申候

一右晦日之始末方。より候てハ、又々御駕籠訴仕候旨。て御座
候

一跡部村惠利寺和尚様之儀も段々御咄し承候処、和尚御当地え
御出立之跡。て御請書差上候趣。承、先々和尚様義も御婦村
之様子。承知致候

一應善寺様方之儀は婦村之節緩々御物語可申上候

一此度地頭所え願出候書面之儀は、婦村之節御披見入可申候

一坂井甚右衛門、本寺引弘之趣御申越被下、右甚右衛門儀、地

頭所え相尋候処、当方よりハ申不遣、去頃惣佐衛門より坂井

甚右衛門相頼候趣、一寸当方え申参り候而已。て御座候と地

頭所より御申聞。御座候

一大垣表之一条も青木より委ク承知仕候

一村瀬様。て一寸御見寸有之候節兼藏申候ハ、只今迄出願書面

皆々新吾相認メ、右新吾儀ハ私同道致し参り候様申上候付、

新吾甚々心配仕り居申候

一小もの蔭等も、御隣村格別御苦勞。被成下候趣承知仕候、誠

々々有難仕合奉存候、宜様御伝へ可被下候、又々婦村之節

緩々御礼可申上候

右は一々委ク可申上処本意。候へ共、俄々倉知村惣兵様、白

金新右衛門様御立。候間、ところまで之分夜中認メ。候間分

り兼候処、筆談被成候て御披見被下候、おもい出シ。書認
メ候間、誠々乱筆悪文。て御座候間、此段幾重。も御用捨之
程奉願候、早々目出度申納候

四月廿九日夜

儀助

善平

幸田清助様
安積清右衛門様
河合源之助様
清水萬右衛門様
飯沼民藏様
堀五右衛門様
同祐右衛門様

⑩ 四月廿九日 彦作より清右衛門様への口上

(端裏書)

「四月廿九日出彦作とのより状」

口 上

かへすく申上候

いよく御勇健被成御座候、珍重御儀奉存候、然は私共も
息才にて暮し居申候間、御安意思召可被下候、私共三人は水
野てわ様え彦作・兼藏御かこそ不仕候、又九兵へ儀ハ永井五
右衛門様願出候之処、三人共御じとふ様へ御下被成候て、村
せ平四郎様御ながや牢やををしこめられ居申候処、今一度水
野様へ出候へは御奉行所へ御差出。相成候処、儀助・金左衛
門兩人むきたびく申つかわし候へども、いろくと申候て
出申す甚々しんかい御座候へども、なにを申も私共ハ牢や
居申候へハ、てたん。およひ申す候処、御しとふ所はしめ
村せ様御役人共今一度出候へハ、御差出し申候様内々。てう
けたまわり申候間、段々わけ申つかわし候へとも、所々て

いろくとおとされ候て出申す候。付、此上ハしせつをまち、

本もふとけ参り、くわしき儀ハきそんの節ゆるゆる申上候、
儀助・金左衛門義ハ、たた江戸けんふつ。まいり申候と相み
へ申候間、此段一寸御しらせ申候、私共ハせひく本もふと
け候へてハかへり申す候間、皆々両村中へ右之段御伝意可被
下候、私共より申つかわし候ハ、此上出候へてハ、貴様方ハ
女よりをとりたまなしと申候てつかわし候へ共、仲々出申す
候、其上長慶寺様へむき御願さけなど。出候様子申来り候処、
私共兩人甚々りつふく申候てつかわし申候か、九兵へ義ハろ
うしんゆへ、からたかもち申候と申候て、とても御願出申す
候ハ、一日てもはやくわれくを牢やお出し申候様。と申
しつかわし候へとも、これも長慶寺。たまされ候て、今だだ
ちあき申す候、此義も一寸御しらせ可申候、先ハ早々以上

四月廿九日

清右衛門様

彦作
九兵衛
兼藏

⑪ 五月 四日 小野木八郎右衛門より幸田清助様への

口上

(端裏書)

「幸田清助様

小の木八郎右衛門より

尊下

口 上

向署。御座候処、益々御安清。て御渡可被遊候はと珍重御儀
奉存候、然は私儀もはり能相勤申候。付、乍憚貴慮易思召
可被下候、誠に去年以来ハ金田様へ向、御状被下忝拜見仕并
慶助方よりも神教丸書状共封入被遣被下、是又悟。落手仕候、
早速。御返書差上申候処、大延引之段真平御用捨可被下候、
私儀も去冬よりも御願申帰国仕度と奉存候処、西市場村高田
村一件。差添罷出候様被仰付候。付、無抛相勤居申候、一件
も相済次第。ハ帰国仕候て、御隠居様始貴丈様にも御目。懸り、
山々之御物語り厚申上度と相業居申候、乍筆末御同室殿へも
宜敷御申伝へ被下候之様、乍憚奉願上候、先ハ返書延引御断

旁得尊意度候、乱筆御用捨可被下候早々以上

五月四日

(端裏書)

「五月二日。認め八日。出ス。ナゴヤへ、上書儀助様と認め」

尚々、爰等が大事之処。御座候間、万端御心配何角御用心可被下候、此方も何分油断不仕様万端心配一同仕候、以上四日切早便りヲ以致啓上候、追日向署。御座候処、各々様御揃益々御壯健可被成御座、珍重奉存候、次。爰許私共始、各々様御宿元は勿論、二ヶ村とも無異儀罷仕候間、乍憚御休意思召可被下候、然は四月十三日出之御状廿日。当着仕拜見、則廿一日右貴答申上候儘其後御文通も無御座、且亦四月十四日出立。て町田御氏も御出府有之候ゆへ、月境よりは定て御吟味も相始り可申と奉存、猶亦あまりく御便り無御座候ゆへ残り三人之御衆中も若御地頭所之被。召捕、万一半舎又は門外留メ杯。相成、夫ゆへ御便りも遠去リ候哉と村役并仮庄屋組頭折々出会相談仕候えとも、如何とも遠察仕兼、又々御様

地不案心。奉存、御尋申上候、よもや今日ハよもや明日ハと待暮シ候へとも、十三日御便り之儘一切御便り無之候ゆへこたへ兼て例之長文。御尋申候、此状御披見候ハ、早速御返事奉待入候
一 扱伴七とのへ折々甚右衛門参り、仮庄屋五右衛門・源之助兩人ヲ折々呼出し、何ソ之役。も立ぬ事を種々被申聞、仮庄屋嶋崎甚七此間断申退役仕候、跡ハの口友藏・源之助・五右衛門三人。御座候へ共、友藏ハ格別呼出し無之候へ共、五右衛門・源之助兩人は三日。あげず呼寄いろく被申付、兩人大迷惑、依之成ル丈ケ不参仕候
一 四月廿五日古市場源右衛門へ伴七とのより、二ヶ村村役人立歸り之儀取暖候哉之段、内咄有之候。付、二ヶ村廿五日夜寄合之上、源右衛門とのへ立歸り断申候
一 四月廿七日伴七との并甚右衛門も出張。て、五右衛門・源之助兩人呼出し被申聞候ハ、兩村之内家出致、只今。立歸り不申、最早家出致候より五十日余。も相成候。付、二ヶ村之内都合拾老人、不立婦分帳除相達候間、可得其意旨被申聞、依之別紙答書伴七とのへ差出候間、御一見之上何ソぞ御役。相立候ハ、御宿并御手代御相談之上御勘考可被成候、尤右拾老人之内。女は家出不仕分、の口善兵衛・萬右衛門、嶋崎佐助

子御尋申上候、御引渡シ相成候三人之衆中は、此節如何御渡り候哉、村瀬様。て牢舎被。仰付有之候歟、又御吟味も如何。御座候哉、内証使之人御頼被成委細御聞取、御文通急々御申越被下度、残り三人之衆中も如何御渡候哉、日々案事申候間、是亦委細可被。仰遣候様奉待入候、為差御事も無之候。
付御便りも不被下候哉、格別之御儀無御座候共、御紙面御越被下候をちから。相待申候間、為差子細無御座候共、折節御文通ハ被。仰越可被下候、

一 先達て伴七との被申聞候は、此上ハ佐々木も甚右衛門も一向不掛り合、何事も自分老人之引受ケ。相成候様、仮庄屋源之助・五右衛門え内咄し有之候処、其言葉とハ相違いたし、其の後も折々更木御陣屋へ被参、佐々木ともいろく内談有之と相見へ申候、殊。甚右衛門とのも折々伴七とのへ相見へ、何か内談有之候と相見へ申候、殊。今二日より甚右衛門との又候大樹寺え出張り、両掛ケ并夜具蚊帳等迄人足。取寄候由。御座候、左候えは又々大樹寺。長居と相見へ申候、何。用有之出張被申候哉、如何と不審千万。奉存候、御陣屋へハ御地より折々御用状参り、何ソぞ可然手掛り。ても出来申候故甚右衛門又々出張被申候歟、其御地より久々御便りハなし、若御地。変事出来候哉と、右甚右衛門との出張。付、猶更御

此三人ハ伴七とのより届ケ書別段。相認め、又清右衛門・次吉・儀助・民藏此四人は男女家出致候分別紙。相認め、又新五郎・兼藏・九兵へ。彦作右之内三人ハ訴訟人旁ゆへか是亦別紙。相認め
右三通認め帳除相届可申旨被申聞候。付、何レ共可被成と相答可申と相談仕候え共、別紙下書之趣は有体。付別紙之趣申答候
一 兼藏との御吟味。逢ひ、新五郎同道。て出府訴訟申上候由、申答候。付、新五郎とのも被召捕候趣と伴七との、咄し。付取分ケ案事申候
一 此間伴七とのの仮庄屋兩人呼出し、彦作・兼藏・九兵へ委細別紙。付申答候訳は
一 彦作高卷石式斗余、居屋敷ハ請地。て持高。無之由、外。も少々持高有之候へ共、元高一同講質地。書入申有之候趣申答候、家作相尋。付三間。長五間半と相答申候、人数之儀相尋。付妻子共制帳無之と相答候、其御地。て若御札之節は後妻ゆへ只今。入帳不仕、めしたき同様。候趣、乍併子老人有之由御答可被成か
一 九兵へとの高卷斗式合と有体。源之助より相答候え共、其御地之振合。よって可然御答可被成候

一兼藏との高式石余、妻子并母親有之由相答申候
 右之振合相答候故、其御地にて先達御答被成候趣と相違仕候
 ハ、其段便りにて被 仰遣候、左候ハ、其趣伴七とのへ答
 直シ可仕候、此方も村役人は居不申、仮庄屋にて何角も相弁
 不申、殊。高帳等も無御座と答直シ仕可申候
 一残三人之衆中御地頭所え被召捕と振合。も御座候ハ、御宿
 へ御内談之上御荷物并文通其外何。ても書類は御宿へ御預ケ
 置御用心可被成候、右得貴意度如此。御座候、以上
 五月二日認メ三日名古屋へ出ス

清右衛門
 民 藏
 次 吉
 萬右衛門
 兵 藏
 五右衛門
 源之助
 林 内
 甚 六
 勇右衛門

上州屋
 源助様
 外六人様
 貴下

(13) 五月 十日 儀助より清右衛門様へ

(端裏書)
 「五月十日出し状」

五月三日出之御礼状同八日七ツ時到着仕拜見致し候、弥御安
 康被成御座候義奉恐悦候、次。当方之者共息才。て相暮申候
 間御安慮思召可被下候、
 一坂井甚右衛門儀野口村引私之趣、承知仕居候、又々出張候は
 弥佐々木も退役も可致様子も無之と奉存候
 一掃村不致者帳除キ可致と被申聞候と承知仕、此儀左衛門屋敷
 より申参り候て被申渡候哉、又は御地役人中より自身。被申
 渡候哉、此義得と承知仕度奉存候、右又御駕籠訴。ても致候
 節願口。も可相成哉。奉存候
 一右御答書之御儀も誠。御苦勞之段有難奉存候、一々承知仕候
 一村瀬様御知行之儀ハ、跡部村惠利寺様当方え御下り之跡。て
 皆々御請書差出候様子。て、右和尚様も暫不首尾。て御座候
 一町田喜兵衛被相下候てより、右和尚様と格別すれ。て其

地。て差出し請書御差下ケ。相成候様、願も有之候え共、其
 儀は相叶不申趣、町田喜兵衛被申候は何れ此一件ハ長ク相成
 候間、掃村可致候様被申候。付、江戸三人之衆中此一兩日。
 出立。て御座候、且村瀬様御知行所右林、尚又当知行所。て
 も三ヶ村之内、老村椎ぬけ式ケ村。て候間、誠。六ヶ敷甚心
 配仕居候

一菩提寺えも度々参り、青木丈右衛門えも数度対面候処、何卒
 宜敷以計ヲ早々掃村為致度様相働申候様被申候え共、此儀も
 誠。は相成不申奉存候、右又長慶寺和尚。ても世話致かけ候
 儘、何れ。も世話可致様被申聞候、右等之始末も一向不得其
 意候へ共、爰二三日見合右振合。付、又々御駕籠訴之存念。
 居申候
 一三人牢舎之者共、誠。極難波。て候儘様々手段を以相働候え
 共、手延。相成候間、此段幾重も氣之毒千万奉存候
 一村瀬様。て此間御糺有之候処、彦作・九兵衛兩人、申口上出
 来之趣、兼藏申口一向不出来。て、暫ク詞荒。て罷在候趣承
 知仕候、那又右牢舎之者三人ながら、是迄ハ村瀬様方。居候
 処、近々徳山五兵衛様方え引越之様子承知仕、尚又五兵衛様
 え参候てハ、三人之者も格別心配厚ク御座と存候
 一三番目之御駕籠訴之儀ハ、六ヶ敷候様惠利寺和尚始被申候間、

是迄延引仕候、最早右振合。より候てハ、出願不致候ハテハ相叶不申候様奉存候

一先使。も申上置候新吾儀、先達村瀬様。て一寸御礼之節、兼藏・新吾と一處。参り、願書之儀も是迄之処皆相認メ候と申上候、右。付藤江藤左衛門うの目たか目。て相尋候趣、青木丈右衛門より委承申候、誠。格別心配仕居申候

一佐々木惣左衛門義ハ如何。て御座候哉、且又高田村之一件も承度、何も御席之節高田村一寸御尋被下候て御申越可被下候一先達地頭所え願候書付下書御一覽。入申候、右ハ何分。も数日相かゝり候を、如何様。も相いとい候え共、中々急キ候ても参不申、誠。其地出立之節とハ大案外。て甚迷惑仕候、右ハ又々駕籠訴杯仕候えは、早々可申達候、其御地。ても変成儀御座候えハ、早々御申越可被下候、先ハ申上度如此早々、以上

五月十日

儀助
善平
新吾

清右衛門様
民藏様
治吉様

萬右衛門様
兵藏様
五郎右衛門様
源之助様
林内様
甚六様
勇右衛門様

04 五月 十日 江戸の新吾より幸田清助様への口上

(端裏書)

「五月十日

古市

幸田清助様

江戸

新吾」

口上

一乍御苦勞懸母え申聞被下度儀は、作方田畑之処ハ是迄之通作可致様仰被下度奉存候、尚又田畑しひれ等之儀も不行届と存候、田方植付之節。てもほしか。てもいたし候様御申聞可被下候、且大一ハ家内むつましく何事。ても相談いたし、相縁怠りなく様、何卒右等之程奉願上候、将又親類共有之候ても一向当。相成不申族。候間、万事心付取計可申様、呉々も右之段御申聞可被下候様幾重。も奉願上候、早々如此、以上

五月十日

(端裏書)

四月廿九日出之返事

五月十日・認 十一日・出ス

尚々、五右衛門とのを五月八日立。遺し申候、大キ。あんし候ゆへ候

尚々、村瀬様。て御咎三人之衆中へ此手紙御見せ被下候様、御内々。て御取計可被下候、尤其趣。彦作とのへも返事遣申候間、此手紙御一同早々御届ケ可被下候、以上

四月廿九日御認メ倉知村惣吉とのへ向ケ御誂へ之御書状、御同人五月九日帰着。て、翌十日御同人御帰村有之候哉と、野口萬右衛門ヲ以伺ひ旁右村へ遺シ申候処、御誂へ之御状直様受取帰り、同十日夕拜見仕候処、如仰時分柄向暑之御各々様益々御壯健可被成御座、奉珍重候、次。爰許二ヶ村一同無異儀、大麦取入中。て、日々繁多。罷有候間、乍憚御休意思召

可被下候

一 村瀬様。て御咎メ三人之衆中存外長々。相成、御難波之趣被仰越、誠。御難波御尤千万。奉存候、乍併先達之文通。も申上候通り、御本家。て野口作右衛門之振合。相成候ては残念奉存候間、此段御承知被下、宜敷御心添被成遣可被下候

一 安藤様より高田村一件之手続キ。て寺社御奉行所へ御内意有之、夫より御本家様へ御内意之趣も具。被 仰越、承知仕候え共、右等之儀御力ラ。被成間敷様仕度奉存候

一 御宿御手代より御差図之御示談。て長慶寺へ御内願之趣承知仕候え共、三人之衆中牢舎御捨免願之段今暫ク筋違ひ。無御座候哉御勘考可被下候、猶亦此方より右御寺を頼ミ、願下ケ等之思召も御座候ハは、是等之儀も如何。奉存候、御勘考可被下候、全体此度一件、初発より御寺へ相掛り御坊様仕合も、應善・惠利・長慶、三度共余り不可然哉。奉存候、御勘考可被下候、

一 御地頭所青木御氏も当テ。は相成不申候間、必。御油断被成間敷候、勿論御地頭所御役人と御相对被成候ては、御公儀様へ対シ、苗代。仕候様。相当不申哉、地頭役人相对内談。て可濟事。候へは、是迄御駕籠訴等之心配。は不及申奉存候、御地頭所よりハ長慶寺様并青木丈右衛門とのへ殿様より

よく申合メ、彼之是之とながびかせ、三度め之御駕籠訴等之難シを通レ、只何ンとなく各々様方をたぶらかし、帰村為致可申而已之料簡と被存候間、青木氏と掛合之儀は御止メ被成候方可然様奉存候

一 三度目御駕籠訴之儀は、先達て之書状。も先ッ御見合可然哉之段申上候え共、彦作とのより御書状参り拜見仕候処、其御地濟方。より彦作とのとも内々文通。てなりとも御内談之上、并御宿とも篤ト御相談被下、御勘考次第。可然様取計可被下候、尤村瀬様牢舎三人之衆中より之書状。は最一度。御駕籠訴被下度趣、度々貴公様方へ文通申遣候へとも承知無之、猶亦村瀬様御役人之内咄シ。は、三度目。御駕籠訴いたし候えは、直様御公儀え御差出シ。相成可申様内談有之候尊承り候。付、御駕籠訴催促致候へ共、儀助様・金左衛門様御承知無之趣申参り候間、此上は御宿は勿論彦作との。も御相談之上、最一度御駕籠訴御勘考次第可然様奉存候

一 御地頭所御願筋之儀は先達よりも御承知之通り、佐々木氏は勿論其新規御抱当時御雇等之御役人様は御免可被 仰付、其代り御地頭所之御儀は結講之御暮方は相成不申候とも、御知行所可相成丈ケ出情仕、御殿様御暮方。御不自由無御座様仕度奉存候、乍併当年金談之儀は御断御願申上度、当地も此

度之入用大造なり、殊。大垣宿場金等も此上如何相成申候哉、伴七とのも只今。賄方相成不申候由承り申候、尤先々月御月次之内六月分其外。少々足金有之、金拾兩都合出来、外貳拾兩計りハ五月晦日迄御日延御願被遣候様承り申候、伴七との跡金賄方如何。候哉と奉存候、二ヶ村は右金子。只今掛り合不申候

一 佐々木氏只今。ては五百兩余持合有之候様子。御座候、三四月比五百兩勢州何方へか為替金。相成、御地頭御本家様御手入。相成候様承り申候、右は大しま小の木医者との。極内々之噂。承り申候

一 坂井甚右衛門五月朔日より又々大樹寺へ出張有之、乍併村方へ沙汰も無之噂承り申候処、差当り口過キ之仕形も無之、當時大樹寺宿借り之由。噂有之候、往々は御分家様御用人。も相勤申度存念之由、若右甚右衛門御役人被 仰付候ハ。決て御断被 仰立べく候

一 兼藏様・新五郎様と同道。て願書相認メ候趣、村瀬。て兼藏様より御申立、右。付新五郎様格別御心配之由被 仰遣候へ共、是ハ格別御心配有之間敷と奉存候、兼藏差派人。罷下り候ゆへ相認メ申候由、何方。ても御答可被成候

無之候

右申上度早々、可^{（可）}祝、書外重便と申残候、何事も御勘考可然
御取計奉願上候、何事も百里へたち候ては不任心候、早々
以上

五月十日夕清助方にて認め

清右衛門
次 吉
萬右衛門
源之助
民 藏
林 内
勇右衛門
儀右衛門

六人様

貴下

16) 五月十四日 清右衛門より六人へ

(端裏書)

「五月十三日認め十四日、出ス」

尚々、此方ニヶ村とも締り方随分宜敷、大丈夫。御座候間、
御地も大丈夫。御働可被下候、五右衛門様ハ早々御かへし可
被下候以上

以急飛札啓上仕候、向暑之砌各々様益々御壮健可被成御座、
珍重奉存候、次。爰許皆々無異儀罷有候間、乍憚御休慮可被
下候、然は今十三日跡部村より先達て御出府被成、村瀬様。
て彦作との其外之衆中一同牢舎被致居候御方御帰宅。て、彦
作との方え御見舞被成下、其席。色々御地之御咄有之、則林
内・和藏・三代藏三四人参り合せ、委細御地之御咄具。承り
申候処、儀助様・金左衛門様御兩人とも此節。至り、此度御
願筋甚々御気弱。御成り被成候様。推察仕候、只今。相成、
右之思召。てはニヶ村共甚々迷惑。奉存候、御兩人様右之思
召。ては是迄命かけ。て御駕籠訴等被成候三人之衆中えも相

立不申、全体牢舎三人衆中よりハ貴公様方御兩人は格別気強
ならでハ相成不申之処、夫。引替御兩人気弱候ては、何事も
是迄御引合とハ相違仕候様奉存候、得々御勘考新吾様とも御
相談之上、何レ今一応御駕籠訴被成下候様奉願上候、万一儀
助様・金左衛門様共御心よわり、御駕籠附も相成不申候ハ、
新吾様なりとも、又は先日飛脚。被参候五右衛門様なりとも
御相談次第。て、近々御駕籠訴可被成下候、猶亦牢舎三人之
衆中ハ先へ出し難儀を為致置、かんじんの貴公様方あんかん
となされ候てケ様。長々。相成候ては相済不申様奉存候。且
先達て兼藏様御駕籠訴之砌は早速。も又々御駕籠可被成様御
申こしも有之候間、何事も外事。御掛り不被成、今一応近々
之内御駕籠訴被成下候様奉願上候、万々一右之趣御不承知。
御座候ハ、御料管も可有御座御事。奉存候。左候えは此方
もニヶ村一同致方無之候間、又々此方より人も遣し可申候え
共、左候ては貴公様方御兩人共ニヶ村小前へ対シ何ンと御申
訳可有之哉、左候へはニヶ村よりも貴公様方へ申分も可有之
と奉存候、得と御勘考可被成候

一長慶寺御願之一件は此方。て種々遠察仕、勘考も仕候処、余
り宜敷も無御座様奉存候間、御止メ可被下候
一此度一件願ひ下ケと申儀ハ、此方一同不承知。御座候間、右

之思召決して御断

一青木氏之儀は先日之手紙も申上候通り、なんの埒チも明ぬ事と奉存候間、互素の白地。御なり可被成候、左もなく候ては先キて却て邪魔も相成可申哉と案事申候間、青木氏之儀も御止可被下候

六人様
貴下

民藏
兵藏
林内
三代藏

一今十三日夜更木村へ人足ヲ以佐々木氏之儀も内々承り合候処、五月節句過。三度目之御。召状佐々木へ被遣候へ共、只今。虚病ヲ構え居候へ共、乍併近日之内佐々木も出府可仕由。噂承り申候、佐々木江戸着以前。御駕籠訴も相済シ申度、其上は一件も御差出シ。相成候ハ、事片付早ク相済可申、左も無之候えは、佐々木と目競へと奉存候、新吾郎様始メ五右衛門様ハ勿論御帰国被成候ても可然様存候、乍併其御地御用欠ケ候ハ、御差留置可被下候、余ハ重便。可申上候、今ばんも夜明前。相成、最々筆略仕候、随分く御きけんよく御身取廻し御凌可被成候、早々可祝

五月十三日夜認メ十四日名古屋へ出ス

清右衛門
次吉
源之助
甚六

(17) 五月十八日 新吾より幸田清助様へ

一筆啓上仕候、向暑之御御気嫌は被成御座候段、誠目出度奉存候、然ハ国元之儀、格別御心配被下候段、有難仕合候、乍此上御願上候

一当一件地頭所之嘆願。出、右。付青木丈右衛門殿も厚ク世話被具候え共、何様藤江藤左衛門地頭所え立入之儘、取捌之儀六ヶ數甚以丈右衛門義も迷惑之趣相見へ申候、私儀も何れ延引候故、帰村可致と申候へ共、最暫と被申候故、当方。罷在、誠。日々之責。恐入申候、何様何れ談候て、急々相分り可申様仕度奉存候、先ハ早々以上

五月十八日

新吾

幸田清助様

18 五月十八日 大井川渡延着 五月二十六日着

(端裏書)

「五月十八日出 大井川支延着

五月廿六日着

御仕立御飛脚五右衛門殿、同月十六日七ツ時到着有之、道中之儀も無難。て御座候処大悦奉存候、随て牢舎三人之者も大丈夫。て居申候間、御安慮可被下候、右ハ五右衛門殿御下り。付其表委細承知仕、誠。安堵仕候

一先達御書状。は出府之者帳除キ之趣、此儀地頭所え参り委ク承申候処、当方より其様成儀は不申遣、其儀ハ佐々木之はかり事。て候間、油断不仕様可致候と被仰候

一坂井甚右衛門殿、又々大樹寺御出張相心得不申、右先便。も申上置候、此儀も地頭所え相尋申候処、御上様被仰候は、坂井甚右衛門用役杯、当方より申付候儀一向寛無之儀と被仰候間、右坂井甚右衛門杯被申候儀ハ、一切持居無御座候共、不調法。ハ相成不申候、右二ヶ条之儀ハ、伴七殿え直。被申達

候共、不苦と存候

一当一件之儀も、長慶寺地頭所えも一日おき。参り御返答之段、願立候え共、今暫く。とは迄も延引相成候段、誠。心外之処幾重。も御察し可被下也、右殿様始青木丈右衛門儀も藤江藤左衛門、屋けもくさ。相成候て様々指障り大迷惑之趣。相見へ申候、尚替惣左衛門更木陣屋始末之義ヲ相見合、地頭所。ても御心配之儀と奉存候

一此間高田野一件、御奉行所え両方共御呼出有之候処、高田村申候は、何卒出役人佐々木惣左衛門御召出し之上対決被仰付被下置候様願候所、徳山五兵衛到々。御召書参り候様子。承申候、何れ佐々木惣左衛門差配之儀は無御座候と相見へ申候え共、何様当方之惣左衛門侍藤左衛門色々指障り、是。ハこまり入申候

一長慶寺地頭所。て急々。相分り不申候へハ、最一度も御駕籠訴仕候と皆々談置申候

一牢舎三人之者。ても、先方。て色々金子等も入、尚又出て三人居候共、是又多分日々入用誠。困入候仕合奉存候、右。付金子先達て御下し被下候処、一向最小々。相成、金子無御座候てハ心ほそく、何卒此書状着次第金子拾両御下し被下度様奉存候、何れ一件之儀ハながびき候様。相見へ申候、又々

格別変御座候へハ早速可申上候、其表。も変御座候ハ御申越可被下候、先ハ早々如此、恐惶謹言

五月十八日

儀助
善平
新吾

安積清右衛門様
大堀勇右衛門様